

4年前に救助犬の訓練を開始

PWJが災害救助犬の育成を始めたのは2010年11月。被災地にいち早く入る強みを生かし、災害時の初動対応力をさらに強化する目的でした。広島県動物愛護センターから、殺処分寸前だった夢之丞を引き取り、神石高原町の施設でトレーナーが飼育と訓練を開始。翌年には訓練犬の血統をもつハルクも仲間入りしました。ハルクは2014年3月、国際救助犬試験の瓦礫搜索部門A段階に好成績で合格しました。

救助犬が発見した人を自分たちの力で救出できるよう、2012年にはレスキュー隊の訓練を始めました。若手スタッフらが定期的に経験豊富な専門家の指導を受け、ロープや器具を使った救助方法、けがの応急手当、機材や無線の使い方など、さまざまな技能を学んでいます。自治体や自衛隊などとの災害対応訓練にも積極的に参加しています。



愛媛県の防災訓練に参加したPWJ藤崎と救助犬ハルク（中央）



初の現場に焦りと不安 素直に犬をほめてあげたい

被災地に着いたとき、初の現場だったので、自分たちに何ができるのか、何をするべきなのかが見通せず、焦りと不安に襲われました。現場には、まだ避難せず自宅にとどまっている家族や、泥を必死で家の外に出している人もいました。捜索場所はあまりにも足場が悪く、犬を放して捜索させるのは危険な状況でした。常に私がそばに付き添って動いたので、普段の訓練のように犬の機動性を十分に生かすことはできませんでした。

犬が反応した場所から行方不明の人が発見されたことは、素直に犬をほめてあげたいと思います。いつもは瓦礫の隙間から漂ってくる人の匂いを探すように訓練していますが、今回は泥の中で、心肺停止の状態でしたので、犬も自信が持てなかつたのでしょう。いつもと微妙に違う反応に私が正直戸惑ってしまいました。これからいろんな経験をともにすることで、より的確に犬の反応を読み取れるようにしたいと思います。

また、捜索活動に集中しそうで、犬や自分たちの休憩と水分補給が思うようにできず、苦しい思いをしました。結局その日は夜10時近くまで活動して撤収しましたが、捜索が数日続いても対応できるよう、より周到な準備と力の配分が必要だと痛感しました。

ペット用品配布や犬の一時預かりも

発生当日の行方不明者の捜索・救助活動に続き、PWJは広島土砂災害の被災地でさまざまな支援を行っています。まず、安佐南区、安佐北区の避難所を回り、ペット連れの避難者にフードやペットシーツなどを提供したほか、犬の健康に関する相談を受けたり、犬5頭を一時的にPWJの施設で預かっていました。また、企業から無償で提供されたウレタンマット、ブルーシートなどの支援物資を、安佐北区の避難所やボランティアセンターに届けました。9月以降は、民家や農地に流れ込んだ土砂の除去を手伝ったり、被災地域の祭りに参加して神石高原町産のブドウを配ったりと、地元の要望をふまえたきめ細かい支援を続けています。



ペット連れの避難者に物資を手渡すPWJ佐野



地域住民と連携した中期支援を計画

PWJは今後も、大規模災害に備えた捜索・救助チームの強化を進めるとともに、広島土砂災害の被災地で、地域のニーズを見きわめながら支援を続ける計画です。被災地では、被害の大さかった安佐南区八木地区の住民を中心に新しい組織が立ち上がり、地域のお年寄りの困りごと相談や、災害時の自主避難を支援する活動などに取り組み始めました。これらの活動は、土砂災害による被災世帯の支援になると同時に、地域住民同士の結びつきを強め、災害に強いコミュニティづくりにもつながることが期待されます。PWJはこうした住民組織との連携を軸に、中期的な支援を検討しています。

災害救助犬ハンドラー・藤崎啓



PWJボランティアさんの声

グローバルフェスタ2014にブース出展しました

昨年に引き続き、PWJは10月4、5日、東京・日比谷公園で行われた「グローバルフェスタ」にブース出展し、支援活動の写真展示とスタッフによる活動紹介、東ティモール産ピースコーヒーの販売などを実行しました。当日は多くのPWJボランティアの皆さんに手伝っていただきました。今回はボランティアさんの声を紹介させていただきます。※体験談から一部抜粋

・黒澤 真理さん（社会人）

「ボランティアに参加したイベント2日目は、台風による大雨で人出も少なかったのですが、ブース前の声掛けで足を止めて立ち寄って下さり、コーヒーを購入して下さった方も多くいて下さって良かったです。また、（テレビでPWJスタッフ・永井が紹介された）東ティモールの番組をご覧になった方もいらっしゃり、大変感激して下さり、こちらまで嬉しくなりました」

・藤田 渉太朗さん（学生）

「僕は東ティモールを支援するHaLuzという学生団体に所属しています。今回、同じく東ティモールを支援しているPWJが出演するという話を聞き、何か手伝いができるかと思い、参加しました。参加してみると、東ティモールの魅力を伝えるということは、非常に難しいことだと実感しました。それでも、ブースを訪れた多くの方は、東ティモールについて話すと関心を持ってくださり、改めて人の心を動かすのもまた人なのだと感じました。今後も、このような機会があれば積極的に参加したいと思います」



メディア
掲載報告

- 8/21～ 毎日新聞、朝日新聞、産経新聞、日経新聞、中国新聞、フジテレビ「めざましテレビ」、広島テレビ、RCCテレビなどで、広島土砂災害時のPWJのレスキュー隊や災害救助犬の活動、避難所のペット支援について紹介
- 9/9 三陸新報にPWJの東北支援事業（住民の活動拠点建設）が掲載
- 10/9 朝日新聞にPWJの出張授業の様子が掲載
- 10/14 TBS「いっぷく！」でPWJの災害救助犬・保護犬事業が紹介
- 10/22 PWJと広島県神石高原町が連携して始めた「ふるさと納税」の取り組みが朝日新聞で紹介

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨）を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。